

Support

新潟市教育委員会
学校支援課だより

<http://www.city.niigata.jp/info/gakusi/>

No. 3

平成21年6月19日

編集・発行

学校支援課 広報担当

7月～9月に開催する
学校支援課関連の研修会等をお知らせします。

各学校からの
研究会・研修会情報
をお待ちしています。

- ・研修会名 **ボランティア体験講演会**
- ・期日 8月3日(月) 午後1時30分～3時30分
- ・会場 新潟市民プラザ(NEXT 21 6階)
- ・目的 講演「ボランティアのすすめ」(仮題)、ボランティア体験発表を聞くことにより、児童生徒がボランティア活動に進んで取り組む意欲をもち、学校生活を充実させることをねらいとする。
- ・参加対象者 小学校6年生、中学校1年生(各校2名)、引率職員
- ・担当 清水 久子 指導主事

- ・研修会名 **ライフスキル研修会**
- ・期日 8月4日(火)・5日(水)
- ・会場 新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター(東北電力ビッグスワンスタジアム内)
- ・目的 いじめの根絶及び自殺の防止を図ることを目的に、生徒によりよく生きるためのライフスキルを身に付けさせることができるよう、学習プログラムを実践的に理解する。
- ・参加対象者 中学校の生徒指導担当者各校1名
- ・担当 上村 茂 指導主事

- ・研修会名 **学校図書館司書全体研修会**
- ・期日 8月4日(火)
- ・会場 新潟市黒崎市民会館 1階 ホール
- ・目的 学校図書館司書の資質向上のため(すぐに活用できる学校図書館づくり)
- ・参加対象者 市立学校図書館司書等
- ・担当 田村 篤 指導主事

- ・研修会名 **幼稚園教員研修会**
- ・期日 8月26日(水)
- ・会場 秋葉区役所 6階 601, 602, 603研修室
- ・目的 幼稚園教員の資質向上のため(特別な支援が必要な子どもたちの指導)
- ・参加対象者 ○新潟市立幼稚園教員 ○新潟市内私立幼稚園教員の希望者
○新潟市立保育園保育士の希望者
- ・担当 輪倉 篤子 指導主事

文科省指定

「小学校における英語活動等国際理解活動推進事業」 拠点校3校の取組

文部科学省では、平成19年度から、小学校における英語活動等国際理解活動について指導方法等の確立を図るため、地域の学校のモデルとなる拠点校を全国に40校につき1校程度指定し、ALTや地域人材の効果的な活用も含めた実践的な取組を推進しています。

平成20年度は、全国で614校の拠点校を指定し、各拠点校で「英語ノート(試作版)」を活用した取組を進めました。

新潟市では、大形小学校、新津第三小学校、曾根小学校の3校が指定を受け、2年間の取組を実践報告書にまとめました。

実践報告書をもとに、拠点校の取組を紹介します。



大形小学校

担任が中心となって行う英語活動を推進！

拠点校事業が始まる前から取組を推進していた大形小学校では、「聞く、聞いて分かる」が実感できる英語活動を目指し、学校独自の年間指導計画を作成していました。

そこに、新学習指導要領にある「コミュニケーション能力の素地を養う」と「国際理解」という視点を新たに意識した英語活動に取り組みました。

既存の年間指導計画に「英語ノート」の指導計画を取り入れながら実践を行った結果、1単位時間の単独の指導計画から、「外国語活動の目標」に沿って、単元としてのまとまりを考えた指導が可能となりました。

大形小学校のホームページには、すぐに使える指導案が満載。1学年から6学年までの指導案がダウンロードできるほか、「英語活動指導案フリーダウンロードコーナー」には、ALTによる「デミアプラン」、「英語ノートプラン」も掲載されています。

「絵本読み聞かせシナリオ」等もダウンロード可能です。

<http://www.niigata-inet.or.jp/niigata-ohgata-e/>



新津第三小学校

地域や児童の実態に応じて「英語ノート」を自校化！

新津第三小学校では、「英語ノート」(試作版)の使用を通じた「英語ノート」のよさと問題点を共有しながら、よりよい授業実践に取り組んできました。

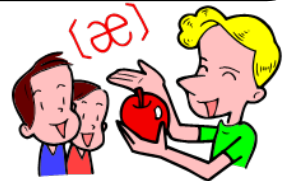
よさ

- ◎ レッスンごとに「聞く」から「話す」の流れで単元構成されており、1時間の流れも、歌やチャンツ、アクティビティなどバランスよく構成されている。
- ◎ 取り上げられているゲームやアクティビティなどは、児童の発達段階に応じた知的な興味・関心を引くものが多く、意欲的に活動に取り組み、自己表現の活動が計画的に組み立てられており、必然的に発話することにつながる。
- ◎ イラストや画面構成が、児童に親しみやすくセンスよくできており、国際理解につながるものとなっている。

問題点

- △ アクティビティやゲームなど、自校の児童や担任の指導力、TT等の指導体制によって、難しい又は、簡単すぎると感じるものがあるので、自校の児童や体制に応じて、変更などの自校化をする必要がある。

1～4年生 ショートタイムプログラム「わくわくえいごタイム」
5・6年生 英語ノートベース「外国語活動」年間指導計画
がホームページからダウンロードできます。



<http://www.niitsu-niigata.jp/sniitsu3e/>

校内研修テーマに沿って
「積極的にコミュニケーションを図ろうとする子どもの育成」
を目指した実践に、挑戦！

曽根小学校

曽根小学校では、低・中・高学年の「目指す子ども像」を設定し、発達段階に合わせた目標を定め、ねらいや活動内容が子どもの実態に合っているかを授業を通して具体的に検証しています。

特に、「英語で表現することを楽しみながらできる喜びをもたせ、慣れ親しんだ英語の表現力で積極的にコミュニケーションを図ろうとする子どもを育てるために、指導方法の工夫や改善を図る」という研究内容は、新学習指導要領「外国語活動の目標」と合っています。

指導案には、研究内容をうけた授業者の提案が明記されており、提案に対する子どもの姿が具体的に記述されています。

<http://www.niigata-inet.or.jp/nishikawa-sone-e/>



クラスルームイングリッシュに自信がもてなかった
教員が少しずつ自信を付けてきた地道な実践は、
曽根小学校ホームページをご覧ください。

特別支援教育のページ

「特別支援学級担任ガイドブック」を作成しました

この度、特別支援学級を担任されている先生方の日々の教育実践に役立つことを目指して「特別支援学級担任ガイドブック」を作成しました。

この「特別支援学級担任ガイドブック」は、主に特別支援学級を担任されて経験の浅い先生方を対象とし、日ごろご質問を多くいただく内容や教材教具を精選して内容構成しましたが、経験を重ねている先生方や特別支援学級設置校の先生方にも幅広くご活用いただきたいと思っております。

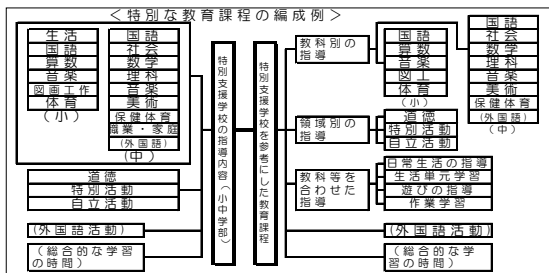
1 ガイドブックの前半には、日ごろご質問いただく内容についてQ & A形式で掲載しています。

Q3 特別支援学級における教育課程編成のポイントはどのようなことですか。

A3 教育課程編成の特例、自立活動、個別の指導計画について

1 教育課程編成の特例

特別支援学級は学校教育法施行規則第138条に定められてあるように、それぞれの学級がもっている役割や機能から一人一人の児童生徒の実態に応じて特別の教育課程を編成することが認められています。このことは、特別支援学級における教育課程の編成が学校の創意工夫に任せられている側面が極めて強く、それだけに責任も大きいということになります。図は、知的障がい者を教育する特別支援学校の教育課程を参考にした編成の一例を図式化したものです。



Q5 特別支援学級で編成できる特別の教育課程とは、どのような教育課程ですか。

A5 特別支援学級では、「特に必要がある場合」、学校教育法施行規則で規定する小・中学校の各教科・領域や標準授業時数及び教育課程の基準（学習指導要領）によらない特別な教育課程を編成することができます。

特別な教育課程を編成する場合には、地域や学校・学級の実態や児童生徒の障がいの状態、発達度を考慮しながら、創意工夫をして編成することが大切です。

【特別な教育課程とは】

各教科の内容：下学年の内容に替えたり、知的障がいの特別支援学校の内容に替えたりすることができる。

時数の取扱い：各教科の時数や1単位時間など弾力的な取扱いができる。

教科等を合わせた指導：生活単元学習、作業学習等の「教科等を合わせた指導」を行ったり、教科の一部又は全部を合わせて指導したりすることができる。

自立活動の指導：領域「自立活動」の指導を取り入れることができる。

教科用図書：実態によって特別な教科用図書を使用できる。

このように、特別支援学級では、実情に合わせて教育課程を編成することができます。しかし、「教科等を合わせた指導」で合わせられるのは各教科・領域であり、「総合的な学習の時間」と小学校の「外国語活動」は活動自体がねらいとなり、合わせることができないので注意が必要です。

2 ガイドブックの後半には、特別支援学級を担任している先生方が工夫されている教材・教具を紹介しています。

国語「漢字がいっぱい」



(2) カード(ウ)

A4用紙(縦)に3列4行の表を作り、枠の中に漢字、

かける。枠の線に沿って切り、7cm四方のカードに

指導の実際

カード(ア)を使って、漢字の読み方を練習する。

カード(ウ)のイラスト付きの漢字カードを5、6枚す

児童に読み方カードを1枚提示し、配布したカードにそ

留意点

1年生の新出漢字を中心にカードを準備し、単元に応じたカード(イ)のようにイラスト側を折り曲げ、読み方が読めるようになったら、漢字だけのカードを用いる。

児童の興味・関心を引き、漢字の読みを視覚的に捉えられ、かるたや神経衰弱などのゲームで活用することもでき

指導事項

漢字を読むことができるようにする。

留意するもの

印刷

作り

(1)

作業学習「Welcome ボードをつくらう」



<指導事項>

作業学習を通して、職業観を意識できるようにする。自分の得意な作業を見つけ、伸ばすことができるようにする。

<留意するもの>

- ダンボール・布(端布)・ボンド
- フェルト・リボン・ボタン

<作り方>

ダンボールを作りたい形に切る
ボンドを塗りながら、端布を貼っていく。(色々な柄)
ボタンやリボンで装飾する。
「Welcome」の文字を貼る。(文字の型をボール紙で作し、フェルトに写し、切る)

<指導の実際や留意点>

作業学習では、様々な能力の生徒が、自分にあった作業内容をこなし、分業して、一つの作品を作り上げる。その作業を通して、自分の役割の大切さを感じ、助け合う心や達成感を味わうことができると考える。作品制作の工程を考えるときには、生徒の特性を生かした役割分担を設定することが大切である。

作り上げた作品は、展示したり、贈り物にしたり、文化祭などで販売するなど学習を展開をしていくことで、目標意識を高めることができる。

ガイドブックは、6月中旬ごろに各学校にお届けします。